

4市町の消防署と消防団などが 大規模な災害に備えて合同訓練

大洲市、八幡浜市、伊方町および内子町の各消防団や消防署などの合同訓練が10月24日、八幡浜市内で行われ、内子町からは天神分団と五十崎分団の団員と幹部など15人が参加しました。

今回の訓練は、災害の発生規模に応じて近隣市町や南予ブロック内へ相互に応援隊を派遣する「愛媛県消防団広域相互応援協定書」に基づいて



上_水利と火災現場が離れていると想定した約400mの中継送水 下_大洲市のホースを内子町の小型ポンプにつなげる

実施。八幡浜市川之内田浪地区で大規模山林火災が発生したとの想定で、中継送水の訓練をした他、情報伝達や安全管理の確認などを行いました。大洲市消防団からのホース中継を受けて放水した内子町の団員は「今回初めて広域の合同訓練に参加した。不測の事態に備え、近隣市町との連携が確認できてよかった」と感想を話しました。

一流の伝統芸能の魅力を堪能 市川海老蔵さんが内子座で公演

来年4月から開催する、えひめ南予きずな博のプレイベントとして、「市川海老蔵内子座公演」が11月3日、内子座で開かれました。南予地域で伝統芸能に励む子どもたち約100人を含む約300人が観覧し、一流の芸に酔いしました。海老蔵さんは素踊りの2演目に登場。五穀豊穡を祈る「三番叟」では、力強く大地を踏んで種をま



く所作を披露し、会場からは大きな拍手が沸き起こりました。シテ方観世流能楽師の谷本健吾さんとの特別対談では、小学生から「本番で100%の力を発揮するにはどうしたらいいか」という質問があり、「稽古で200%の力を発揮できるように努力すること」と真剣な表情で答えていました。内子子ども狂言くらぶの城戸景道さん(五十崎

中3年)は「一流の人たちの芸に感動。発声や所作などとても勉強になった。海老蔵さんから教わった『稽古から200%の力を出す』を実践したい」と目を輝かせていました。

1_延命長寿を祈る「延年之舞」を披露 2_「三番叟」では華やかな衣装と力強い舞で観客を魅了した 3_谷本さんによる能楽一調「船弁慶」 4_伝統芸能の継承に取り組み子どもたち。それぞれしながら開演を待っていた

未来の文化芸術を想像して 内子座を考える「よもやま講座」

「内子座よもやま講座」(全3回)が10月、内子座で開かれました。延べ約100人が受講し、内子座が今後も多くの人に親しみや愛着を持って関わってもらえるよう、さまざまな角度から考えました。最終回となる第3回講座は29日、音響や照明、

空調などの機能と設備について学びました。講師の一人、徳永高志さん(NPO法人カコア)は最後に、「皆さんの『こんなふうにも活用したい』を、1つでも多く形にしたい。今後とも相談しながら、内子座の未来について一緒に考えましょう」とまとめました。



専門家の話に耳を傾ける参加者の皆さん。意見交換も行われました。

内子町がドラマのロケ地に—— 旅の魅力ぎっしりの「旅屋おかえり」

内子町で収録が行われたNHKの特集ドラマ「旅屋おかえり」の取材会が11月13日、内子座で行われました。主人公・丘えりか役の安藤サクラさんの他、草刈民代さん、ヴァサイエガ涉さん(少年忍者/ジャニーズJ)が舞台上上がり、ドラマや内子町について語りました。ドラマの原作は原田マハさんの『旅屋おかえり』。旅の代行業を生業とした

主人公が全国を旅する物語で、笑いあり涙ありの心温まるドラマになっているそうです。取材会では、安藤さんが「すてきな町で私自身が旅を楽しんだ。まだ訪れたことがない人にも、この魅力を届けたい」と思いを語りました。ドラマはBSプレミアムで4年1月25日午後7時~7時30分、4夜連続で放送される予定です。



かわいい小さな手で、手形をベタリ。楽しそうな笑顔が家族の思い出に

いかに大風合戦の初節句行事 2年分の思いと願いを込めて開催

いかに大風合戦の出世風名前書きが11月14日、共生館で行われました。出世風は初節句行事の一つで、凧に子どもの名前を書いて健やかな成長を願います。例年5月5日に開催される大風合戦が中止になり、初節句神事のみ延期となってい

ました。2年ぶりの開催で、町内外から200組が参加。真剣な表情で筆を走らせるお父さんや、手形を付けて思い出づくりをする家族など、ほほ笑ましい光景が見られました。神事と風揚げは11月28日に行われました。



上_ドラマの見どころや内子町の魅力を語ってくれた出演者の皆さん 下_内子座や天神産紙工場など町内各地で撮影が行われた